

令和8年度 教育DX推進プラットフォーム事業

現状・課題

- ICT教育サポーターが全県立学校を月3回程度訪問。最近は生成AIなど先端技術活用や情報セキュリティ研修など、専門性の高い依頼が増加
- 9割の教員が「活動に効果がある」と回答するなどニーズは高いが、全ての要請には十分対応できていない。
- 急速に進展するAI等の活用には、教員のみでは限界があり、専門人材など外部支援が不可欠。また、端末更新作業など環境整備に伴う。教員負担軽減のためにも、サポーターやGIGAヘルプデスク等による継続的な支援が必要。

取組の内容

(1)ICT教育サポーター(県立学校)

学校の現状やニーズに応じ、訪問回数・支援内容を調整
全ての県立学校を対象に週1回程度訪問

①ICT活用指導力向上

教員が授業でICTを活用できるよう支援

②日常化推進

教員が校務や授業で日常的にクラウドを活用できるよう支援

③DX強化

教員や生徒が校務や授業で生成AI等の新たなツールを活用できるよう支援

<特別支援学校>

生徒の特性に応じ、ICT機器を授業で活用できるよう支援

<定時制高校・夜間中学>

教員が授業でICTを活用できるよう支援

連携して対応

(2)GIGAヘルプデスク(県立学校、私立学校)

相談員2名 月～金まで、教員からの電話やメール、遠隔システム等による相談対応

①タブレット端末・NW等のQA対応

②タブレット初期設定やセキュリティ対策、端末管理等

効果

①教員のICT活用指導力の向上

②生徒の「主体的・対話的で深い学び」のさらなる実現

③生成AI等の利活用による創造性を育む学びや校務の効率化の推進

教育DXの実現

教員や児童生徒がデジタルを適切に活用し問題解決や価値創造ができる